

32 なせば成る——上杉鷹山

麗澤中学・高等学校教頭 松本 卓三

1 主 題 郷土愛、先人や高齢者への尊敬と感謝 <4-(8)>

2 本時の指導

(1) ねらい リーダーとして事業を達成させようとするとき、何が重要なのかについて、上杉鷹山の生き方を通して学ぶ。

(2) 展 開

	学習活動と主な発問・期待する反応	教師の支援
導 入	1 「上杉鷹山」という人物を知っていますか。 ※日本人があまり知らないにもかかわらず、アメリカの大統領など、海外で評価が高い人物として注目させる。	・筆者に興味を持たせ、その代表作であることを紹介する。
A 価 値 の 追 求 ・ 把 握	2 江戸時代の大名はどのような暮らしをしていたのだろうか。	・江戸時代の大名の実態について、常識的イメージと大きく異なることを理解させる。
	3 資料(鷹山の生い立ちと米沢藩の事情)を読む。(p.231～232-11行目まで) ※資料の内容に触れつつ、江戸時代の大名が意外と質素で形式に縛られ、厳しい環境の中で生きていたことを説明する。	・鷹山が財政的に苦しい米沢藩に養子に入ったことの意味を考えさせる。
	4 資料(鷹山の改革の試み)を読む。(p.234-8行目まで)	
	5 鷹山の改革の進め方とはどのようなものだっただろうか。 ◇自分から率先して質素儉約に努めた。 ◇反対する家臣がいてもひるまなかった。 ◇新しい産業を興すなど創意工夫をこらした。 ◇江戸から高名な学者を招き、教育に力を入れた。 ◇民の意見を取り入れ、家柄を問わず人材を育てた。	・改革を成功させるということは、容易なことではないことを、鷹山の実践を通して学ばせる。 ・有力な家臣が反対したとき、いかに苦勞して鷹山がこれを切り抜けたかについて、具体的なエピソードを補足説明する。 ・最終的に改革が成功した原因が何であったかについて、生徒に気づかせる。
	6 資料(藩主から退き、伝国の辞を残す)を読む。(p.235-9行目まで)	
	7 中心発問 鷹山は藩や民をどのように考えていたのだろうか。また、家族に対してどのように接していたのだろうか。 ◇藩は先祖から受け継いだもので私有物ではない。 ◇自分自身は中継ぎ役に徹していた。 ◇障害を持った妻を心から慈しんだ。	・鷹山の偉さとは何かについて、生徒に理解させる。 ・鷹山の方法が決して昔の話ではなく、現在でも十分通用することについて理解させる。

B 内 面的 自 覚	8 最後の部分(上杉鷹山のことば)を読み、話し合う。	・本資料を通して学んだことや感じたことを、ワークシートに記入させる。
	9 この言葉は、鷹山のどのような気持ちから出ているものだろう。	
	10 なぜ外国の政治家が鷹山を尊敬する人物だと考えたのだろうか。	
終 末	11 教師自身の感想を話し、余韻を持って授業を終わる。	・教師の話聞きながら、自身を振り返り、自問や内省を深めさせたい。